



[今月の聖書]

「イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。」(ヨハネ 6:35)

「よくよくあなたがたに言うておく。信じる者には永遠の命がある。わたしは命のパンである。あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死んでしまった。しかし、天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である。」(ヨハネ 6:47-51)

そのとき主はモーセに言われた、「見よ、わたしはあなたがたのために、天からパンを降らせよう。民は出て日々の分を日ごとに集めなければならない。こうして彼らがわたしの律法に従うかどうかを試みよう。六日目には、彼らが入れたものを調理すると、それは日ごとに集めるものの二倍あるであろう」。モーセとアロンは、イスラエルのすべての人々に言った、「夕暮には、あなたがたは、エジプトの地からあなたがたを導き出されたのが、主であることを知るであろう。また、朝には、あなたがたは主の栄光を見るであろう。主はあなたがたが主にむかってつぶやくのを聞かれたからである。あなたがたは、いったいわれわれを何者として、われわれにむかってつぶやくのか」。モーセはまた言った、「主は夕暮にはあなたがたに肉を与えて食べさせ、朝にはパンを与えて飽き足らせられるであろう。主はあなたがたが、主にむかってつぶやくつぶやきを聞かれたからである。いったいわれわれは何者なのか。あなたがたのつぶやくのは、われわれにむかってでなく、主にむかってである。」(出エジプト 16:4-8)

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:28-30)

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「天からのパンを」と言う題で、ヨハネによる福音書6章に記されているイエスキリストの言葉に耳を傾けてみたいと思います。パンの問題は旧約聖書、新約聖書を通じて聖書独特のコンセプト(概念)です。なぜイエス・キリストがご自身を「命のパンである」といったのか。ユダヤ人にとって何故そんなに関心があったのか。5000人以上の人たちにお腹がいっぱいになるまでパンを与えたと云う記事は何を意味しているのか。これらの関心はただイエス・キリストの時代にあった出来事と云うよりも、さらに1500年も前にモーセが出エジプトにおいて、荒野でパン(マナ)を与えたと云う出来事と関係しているのです。200万人とも言われるイスラエル民族がエジプトを脱出して、40年の間、畑を耕すこともなく、羊を飼うこともなくカナンに到着するまでの長旅をなし得たのは、天よりのマナがあったからです。ですから天よりのパン(マナ)の問題は人生における究極的な生存権的問題を神がいかに解決してくださるかと言う重大テーマなのです。前回、土の器(第二コリント4:7)のお話をしましたが、まさに人は土から作られて土に帰る素焼きの器のようなもろい無価値な存在なのです。しかし土の器が生きている限り、生きる意味が問われ、生活をしていくための食べ物が問われ、神を信じ栄光を表すと言う信仰が問われているのです。ですからパンの問題は①生活問題②信仰問題③永遠の問題に関わるテーマなのです。「すべて重荷を負うて苦労しているものは、私のもとに来なさい。あなた方を休ませてあげよう。」(マタイ 11:28)と言われたイエス・キリストの言葉は、神が私たちの生存と信仰に関わる全ての問題を解決して下さると云う慰めの言葉なのです。今月も神の祝福が豊かにありますようにお祈りいたします。

小田 彰

「光に導かれて」

うどにし つとむ 鵜戸西 努 (宮崎県)

高校 2 年生の 5 月に、イエスを救い主、導き手と信じ受け入れ、心に灯がポッと点灯したようです。その数ヶ月後に、主の召 (Calling) に応え、伝道者として、人生を献げる決心をし、それから 40 年が経過しました。

私は牧師、宣教師よりも、生き方と福音の道を伝える伝道者という呼び名を好んでおります。伝道者として生きていくこと、それは時に不思議な道が開かれていくことがあり、それがそのままメッセージになることもあります。



20 年程前、日本での伝道の道が閉ざされ、止むに止まれず渡米することになった時に約 50 万円の支払いを済ませなければ、アメリカには行けない、ということがありました。しかし、ある方からの献金で支払いと旅費を充当し、残った全財産 1 万円を手にし、渡米し、任務を全うして、数ヶ月後帰国しました。

その様に、「この先が一体どうなるのか？」と雲行きが怪しくなり、光がゆらぐことがあります。2019 年 7 月の始めも、閉ざされ、停滞し、矢継ぎ早に扉が閉じ、闇が迫るように感じることもありました。そんな時に、小田彰先生の「光求めて」の CD が届きました。先生ご自身、「多忙、疲れから血圧が上がり、澱んだ暗がりに光が差した」との証がありました。神さまは、時に伝道者の血圧をも上昇させて、然るべき言葉を与え、人々にメッセージを送られるものなんですね。返って、逆境にある時が順境の時よりも人の心に響く言葉か与えられるのかも知れません。私も大いに励まされ、「光の子らしく歩く」というメッセージが完成しました。

.....
鵜戸西 努牧師は、宮崎を中心に全国各地で福音を語る伝道者です。米国のミッションによって作られたバプテスト教会の牧師として伝道を開始し、さらに米国からの支援を受けて宮崎への宣教師として長年働かれました。現在バイブルアカデミーのメンバーとして共に学んでいる同労者です。

(お知らせ)

* 地区集会のご案内

8 月 2 1 日 (水) 11:00 水曜礼拝 (自由が丘チャペル)

その他の地区集会は夏休みです。

* 8 月 1 1 日 (日) 16:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈祷会 (淀橋教会)

* 9 月 7 日 (土)、8 (日) 日本キリスト教団土佐教会チャペルコンサート、伝道礼拝

* 9 月 2 3 日 (月祝日) 14:00 第 28 回関西エヴァンジェリカルハーモニー賛美の祝宴 (大阪クリスチャンセンター OCC ホール)